

緘黙症シンポジウム

『体験者が語る緘黙症の指導体制を巡る日本の実情』

日本特殊教育学会第45回大会 準備委員会企画シンポジウム7 2007年9月24日開催

企画者 浜田貴照 (かんもくの会)
藤田継道 (兵庫教育大学)
司会者 藤田継道 (兵庫教育大学大学院 学校教育研究科)
話題提供者 H (場面緘黙児の保護者)
T (公立高校教師)
K (場面緘黙経験者)
指定討論者 園山繁樹 (筑波大学大学院 人間総合科学研究科)

本シンポジウムの企画趣旨

1. 特別支援教育の対象になると考えられる障害の中で、緘黙児の指導方法を研究し、解説した書籍や文献は少なく、一般的にも緘黙症は知られていない。
2. そのため、多くの緘黙児は学校や保護者から適切な対処を受けることができないまま成長する。
3. 大人になるまで緘黙症を持ち越してしまうと、その後の人生に大なり小なり後遺症を残す。
4. 緘黙症に苦しむ子どもをもつ保護者は、緘黙症を改善する方法を一生懸命模索するものの、有効な方法をなかなか見出せず、苦悩し、はがゆい思いをしている。
5. 学校の先生の中にも、受け持つ緘黙症の児童・生徒への対処に真剣に取り組んでいる方々がいるが、やはり情報が少ないために指導に苦慮している。
6. この数年ほどの間に、緘黙症経験者や保護者らが協力して問題解決を訴える気運が高まってきた。
7. 本シンポジウムは、私たちが身をもって体験した、現在の日本における緘黙症を巡る諸問題を専門家の方々にもご理解いただき、その原因と解決のための方策を研究していただくために企画した。